

1 はじめに

核家族が増え少子高齢社会が進み、子どもと関わるのが少ない生徒たちは、小さな子どもがどのように成長していくのか想像することができない。家庭総合の目標に「家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」とあるが、子どもと関わったことのない生徒たちは主体的に考えることができないようだ。

今までの授業を振り返ると、家庭総合での「衣・食」領域は実習を取り入れながらの授業展開を心がけていたが、「保育」領域での実習はあまり取り組むことができなかった。選択科目なら積極的に取り入れたと思うが、全員必修での家庭総合となると躊躇していた。生徒の現状を見ると、やはり、実験・実習など体験型授業のほうが前向きに取り組んでいる。

そこで、保育領域での体験型授業を取り入れることによって、生徒が子どもの成長を具体的に知ると同時に今までの自分を振り返り、これからの生き方を主体的に考え行動できるようにと思い研究の主題とした。

2 研究計画

- (1) 本校生徒の状況
- (2) 本校生徒の意識調査
- (3) 指導計画
- (4) 指導実践
- (5) 学習後の意識調査と考察

3 研究内容

- (1) 本校生徒の状況

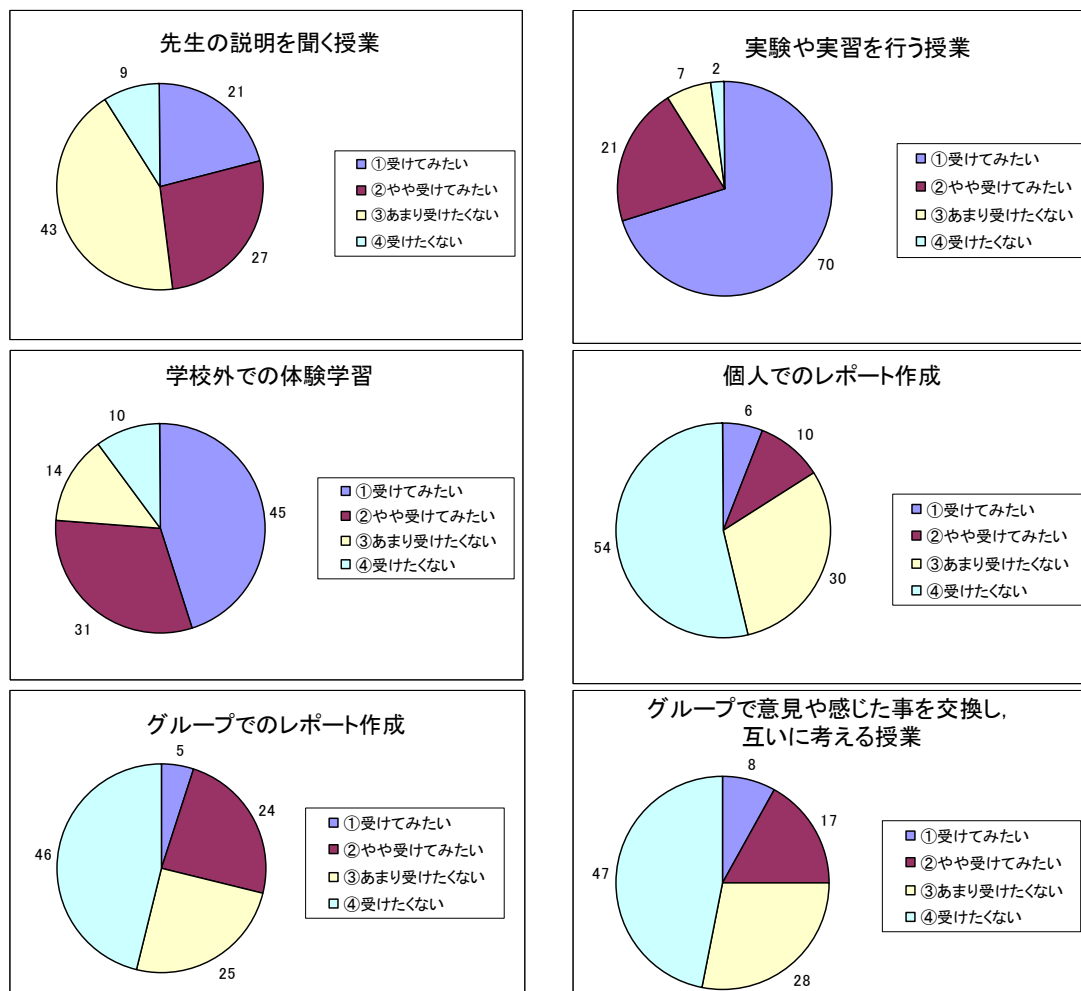
本校は大正14年に市原学館として創立され、平成23年度に創立86周年を迎えた伝統校である。以前は各学年普通科7クラス、英語科1クラス、合計8クラスであったが、現在は各学年普通科4クラスの小規模校である。市原市南部に位置し地元の生徒が多いが、数年前から他市町から通学してくる生徒も増えている。平成22年度の卒業時の進路は、卒業生128人中、就職53人(41%)、専門学校進学34人(27%)、大学短大進学者32人(25%)、その他9人(7%)である。

家庭科の授業については、生徒全員が家庭総合4単位を2、3年生で履修し、クラス単位で授業展開している。2年次は1時間ずつの授業だが、3年次は調理実習があるので2時間連続で授業を行っている。保育分野は3年次で展開しているが、実習ではない座学の授業での2時間連続は、集中力を持続するのが難しい。教科によっては少人数制をとっており、落ち着いて授業に取り組むことができるようだが、学習成果につながることは別問題で、それを課題の一つとしてあげている状況である。

(2) 本校生徒の意識調査

ア 家庭科授業全般における事前アンケート調査とその結果及び考察

(アンケート実施 H22年度3年生 128名)



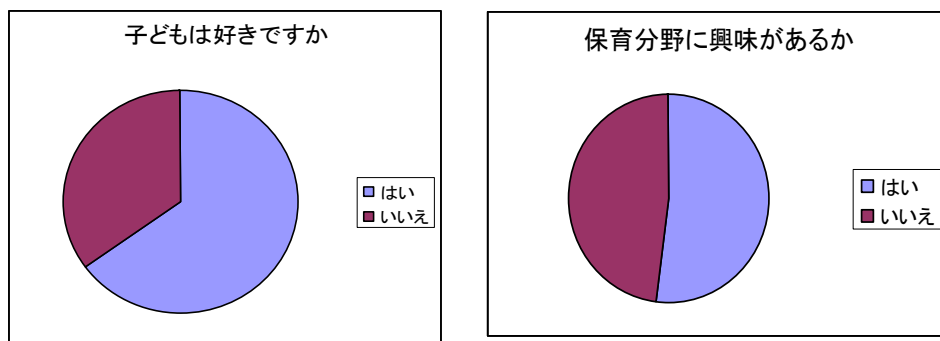
考察

先生の説明を聞く授業に肯定的な生徒が約半数いることに驚かされた。理由を見ると「楽だから」という生徒が多い。「ただ椅子に座って板書されたものをノートに写す」ことだけに慣れている生徒が多いということが改めて分かった。一方で、実験や実習に興味を持っている生徒も多く、調理実習には積極的に取り組んでいる。

また、レポート作成等自分の考えをまとめ・発表することが苦手で、やりたくないと思っている生徒が多いことも分かった。グループでのレポート作成は「友達との話し合いで意見をまとめることができない」等、人とコミュニケーションをとることが苦手な生徒が多いことからくる困難さが伴うことも分かった。

学校外での体験学習は「受けてみたい」との意見が多かった。しかし、中には「わざわざ校外に出るのが面倒」「必要性が分からない」という否定的な意見もあった。楽しく・楽なことはやるけど、苦しく苦手なことはやりたくないという生徒の思いがよく分かり、普段の生活面にも共通していると感じた。

イ「保育」領域における事前アンケート



考察

半数以上の生徒は子どもが好きと答えたが、好きと嫌いの差が大きいことも感じた。子どもが嫌いの理由には「うるさい、汚い」が多かった。また、「子どもは好きじゃないけど自分の子どもは別だから、将来は自分の子どもがほしい」という意見や「自分のやりたいことができなくなる」「お金がかかる」から自分の子どもを持ちたくないという意見もあった。中には、「近くに小さな子どもがいないからよく分からない」という回答もあり、子どもと触れ合う機会がほとんどない生徒がいることも分かった。また、保育分野に興味があるのは約半数で、「保育は女がやればいい」と考えている男子生徒の意見もあった。

子どもと触れ合う機会が少ないので、テレビ等で見た子どもに対するイメージが、生徒たちの中に作られていた。そこで、体験学習を通して、子育ては女性一人では難しく、男性や周りの協力が必要であることを伝えなければならないと強く思った。

(3) ア「家庭総合」の指導計画

	2年次	3年次
1 学 期	住まう 自分の住まい・安全で快適な住生活・住まいのデザイン これからの住生活と環境 装う 被服実習	食べる 高校生の食生活・食べ物と栄養素 調理実習
2 学 期	衣服を着る意味・衣服を選び方 選択の方法・これからの衣生活 消費生活と環境 将来の生活を見通す・経済的の自立・消費者問題 消費生活と環境のかかわり	調理実習 食品の選び方・食文化 育つ・育てる 子どもの発達・子育てと福祉 子どもと出会う・子どもの生活 親になる過程・役割
3 学 期	家族とともに 暮らしと家族・家族を支える仕組み・家族のかかわり シニアとともに シニアを知る・シニアの介護・支える法律、仕組み 自分の未来像としての高齢期	

イ「保育領域」の指導計画

学習内容	配時	学習活動	評価
子どもの発達	3	①妊婦疑似体験教材を使い観察する。 [事例 1] ②胎児の様子を確認する。(プリント・ビデオ) ③子どもの身体・運動機能・言葉・知能の発達を知る。	・妊婦さんの様子が分かったか。 ・胎児の発達の様子が分かったか。
子育てと福祉	2	①②ゲストティーチャーを迎えて 乳児と母親にインタビュー形式での交流 [事例 2]	・乳児の観察ができたか。 ・積極的に取り組めたか。 ・乳幼児の特徴、生活、子育ての様子を理解できたか。
子どもと出会う	3	①保育所実習の準備 ②③保育所実習 [事例 3] 幼児との交流、観察	・幼児の特徴・能力について理解できたか。 ・積極的に参加できたか。 ・幼児に接する時の留意点を理解できたか。
子どもの生活	2	①②子どもの遊び・食べ物・衣服・生活習慣・安全について知る。 課題「インタビューしてみよう」 ～子どもが生まれるということ～ [事例 4]	・乳幼児の生活について理解することができたか。 ・インタビューをして、プリントにまとめることができたか。
親になる過程・役割	4	①親の役割を知る。 新聞記事の活用（虐待について） ②子育て支援を知る。 視聴覚教材の活用 (ビデオ「育ち 育てる 子育ての時間」) ③④レポート作成 [事例 5] ・男性の育児参加について ・虐待について ・理想の親像について ・その他 の中から1つ選んで自分の考えを書く。	・親の役割を理解できたか。 ・子育て支援を知ることができたか。 ・自分の考えをまとめることができたか。

(4) 指導実践

ア 事例1 妊婦疑似体験

配時	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 10分	・これからの授業について知る。 ・本時の内容を確認する。	・なぜ「保育」について勉強するのかを知らせる。
展開 30分	・班員を確認する。 ・プリントにしたがって体験する。	・速やかに移動させる。 ・事故のないように気をつける。
まとめ 10分	・友達の感想を聞き、自分の意見をまとめる。	・お互いの意見を聞きながらまとめさせる。

妊婦疑似体験のセットは本校に2セットしかないなので、他の学校より5セットを借りた。合計7セットを使い、5人で1セットずつ使用した。なるべく男子に体験するように声をかけて、1班2人くらいが体験できた。

～かんたん妊婦疑似体験～ ワークシート

3年 組 番 氏名

★はじめに・・・

①グループの中で「体験する人」「観察する人」を決める。

②体験を通じて感じたことは、どんな言葉にして記録する。

体験する人

観察する人

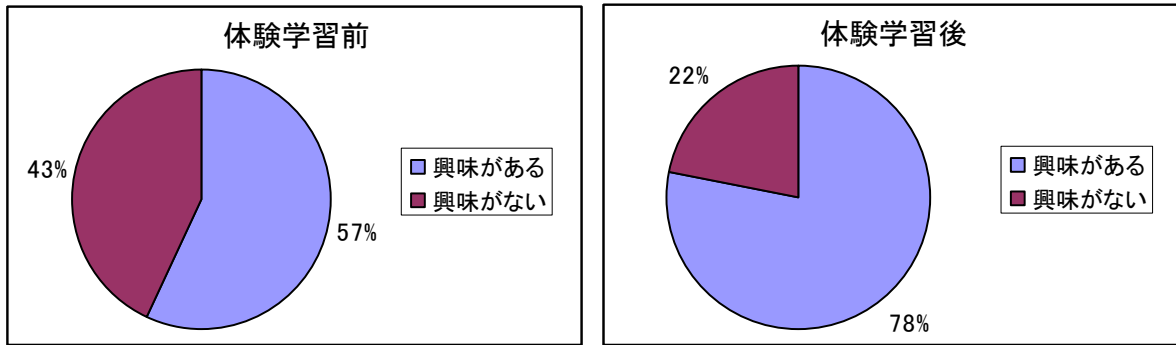
全体を通しての感想

体験内容	体験したときの感想 (感じたこと・分かったこと・疑問点など)	観察したときの感想 (観察者として感じたこと・分かったこと・疑問点など)
① 体形を観察する		
② 触れる。触れさせる。		
③ 椅子に座る。立ち上がる。		
④ 床のものを拾う。		
⑤ 階段を上る。降りる。		

[生徒たちの様子と考察]

面倒なことはやりたくない生徒が多い中、思ったより積極的に取り組んでいた。妊婦さんが普段の生活に苦労している点を具体的に知ることができたようだ。また、高校生である自分たちがどのように手助けできるかを考えていた。妊婦疑似体験学習後で保育分野に興味を持った生徒が増え、今後の授業にも積極的な取り組みができるのではないかと期待できる。

保育に興味があるか（興味を持ったか）



イ 事例2 ゲストティーチャーを迎えて

配時	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5 分	・ 本時の内容を確認する。	・ 危険がないように注意させる。
展開 35 分	・ 乳幼児の様子を観察する。 ・ インタビューの内容をまとめる。 ・ ゲストティーチャーに質問をする。	・ 乳幼児の持ち物, 洋服, おもちゃ等も観察するように促す。
まとめ 10 分	・ プリントをまとめる。	・ プリントに自分の意見がまとめられるように静かにさせる。

二組の乳児とお母さんをゲストティーチャーに迎えた。一組は8ヶ月の双子の男の子，もう一組は9ヶ月の男の子であった。プリントを用いて私がインタビューをしながらすすめ，生徒たちからの質問を加えながら授業展開をした。その子の生活リズムに合わせて授業の途中に離乳食を食べさせ，ミルクを飲ませた。直接赤ちゃんに触れたり，抱っこさせてもらった生徒もいた。どちらのお母さんも「子どものかわいさだけでなく，大変さも知って欲しい」ということで，子どもがいる時といない時の生活の違いや気持ちの違いを実体験に基づいて話していただいた。9ヶ月の男の子がいるお母さんは，不育症に悩まされた数年間の苦しみ・悲しみと妊娠したときの喜び，現在の気持ちをそのまま語ってくださり，生徒たちに「妊娠・子育て」について改めて考える機会を与えてくれた。

<インタビューの項目>

- ・ ゲストティーチャーの名前簡単な自己紹介
- ・ 妊娠が分かってどんな気持ちだったか
- ・ 子育てをして思うこと
- ・ 高校生の皆さんへ
- ・ 生徒からの質問
(出産は痛かったか)
(子育ての苦労)
(お金はどのくらいかかるのか)
など

[生徒たちの感想]

- ・ 子どもは育てることは本当に大変だと思う。子どもを一人育てるのにも、ものすごい忍耐力と体力が必要だと思った。子どもができるまでにはたくさんの困難があったと思います。僕も自分を育ててくれた両親に感謝したいと思います。
- ・ 普段赤ちゃんを見かけると「かわいい、かわいい」って言うけど、実際ママになったら大変なことがたくさんあって、妊娠中も出産後も辛いことがあるのを知って、ママになるには甘い気持ちじゃいけないんだと思った。〇〇さんの旦那さんはお風呂に入れてくれたりして、そういう理解のある相手と結婚することも大切なのかな～と感じた。きちんと計画を立てて出産したいと思った。



[生徒の様子と考察]

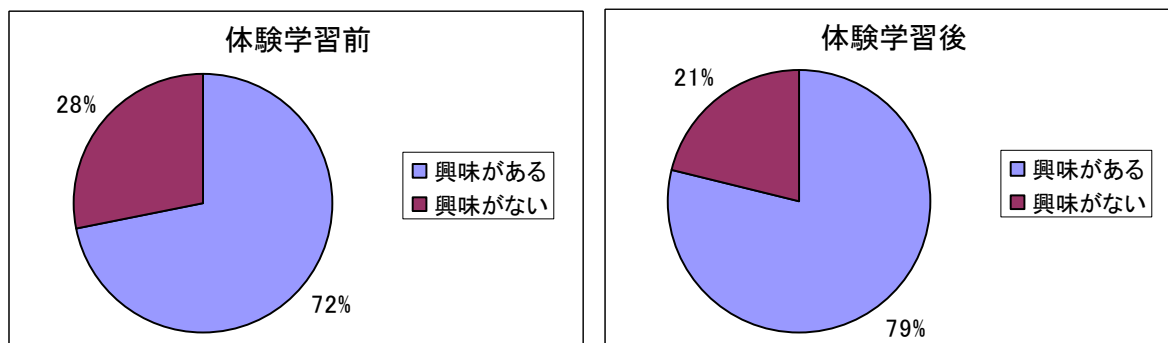
ゲストティーチャーと廊下を歩くだけで他学年の生徒が声をかけてくるくらい、生徒たちにとっては大変興味深かったようだ。ベビーカー、ベビー服、おもちゃ等初めて見るものも多く、真剣に見ていた。教室では、赤ちゃんを見て自然と笑顔になっている生徒が多かった。ゲストティーチャーの話はよく聞いていて、メモもよくとっていた。

生徒の感想にもあるように「子どもはかわいいけど、かわいいだけでは子育てできない」ことが伝わってよかったと思う。また、ゲストティーチャーからもそのことを伝えたいとの要望もあった。「大変だからこそ周りの協力が大切である」ことを実体験から話してくれたので、生徒には分かりやすかったようだ。また、親が苦勞して育ててくれたことを感謝する生徒もいたので、いろいろなことに気づききっかけになったのではないかと考えた。

アンケートの結果からも「ゲストティーチャーを迎えて」という授業内容に始めから興味があった生徒が多いことが分かる。ゲストを迎えるということによって多少緊張感を持って授業に臨めたのもよかった点である。

そして何よりも、赤ちゃんがいるだけで教室の雰囲気が変わり、生徒たちの優しい顔つきが印象的な授業となった。

保育に興味があるか（興味を持ったか）



ウ 事例3 保育所実習

配時	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5分	・ 本日の内容を確認する。	・ 出席, 体調不良がないかを確認する。(体調不良は保健室に行かせる)
展開 90分	・ 保育所まで歩いて移動する。 ・ 保育所の先生から注意点を聞く。 ・ 子どもたちと一緒に遊ぶ。 ・ 学校まで歩いて移動する。	・ 危険がないように注意させる。 ・ 注意点を確認させる。 ・ 子どもたちと遊べない生徒に声をかける。
まとめ 5分		・ 感想は次回まとめるので, 今回のことをメモしておくように伝える。

4クラス2時間ずつ、合計4日間の保育所実習を行った。今まで保育実習をしていなかったもので、市役所に電話をして受け入れてくれる保育所を探るところから始まった。教頭先生の協力もあり、すぐに受け入れてくれる保育所が見つかった。

事前にプリントを使用して注意点を確認した。ほとんどの生徒が保育関係の進路ではないので、保育所に行くことに抵抗を感じている生徒もいた。そこで、子どもに接するときの注意点や保育所実習の目的を丁寧に説明した。2時間の保育所実習だが、行き帰りの時間を考えると保育所にいたのは1時間程度で、あっという間に時間が過ぎた。

<保育所からの注意事項>

- ・ 外遊びなのでジャージで来る。(一緒に遊んで欲しい)
- ・ 力の加減をしながら遊ぶ。(コントロールすることも大事な勉強である)
- ・ 子どもに合わせる。
- ・ 髪の毛はきちんと束ねる。(じゃまにならないように)
- ・ 靴のかかとは踏まない。(園児は見ているので、いいお手本になって欲しい)
- ・ アクセサリーは絶対禁止 (危険なので)
- ・ つめを短く切ってくる (危険なので)
- ・ 困ったことがあったらすぐに保育所の先生に連絡する。
- ・ 具合が悪くなったらすぐに休む。(無理はしないように)

[生徒たちの感想]

- ・ 何にでも興味津々で同じことを皆でやって遊ぶ子が多いなあと思いました。手が汚れたり、服が汚れても平気だった。また、子ども特有の遊びを作っているなあと思いました。保育士さんたちは広い視野で周りを見ていてすごいと思いました。私は一緒に遊んでいる子達を見るので精一杯で大変なのに、あんなにたくさんの子どもを一人ひとり見ていてびっくりしました。子ども達は走り回ったり、砂遊びしたり、踊るのが好きだなんて思ったし、自分の話を聞いてほめてもらうのが嬉しいんだなって感じました。でも、思い出してみれば、自分が小さい頃もそう

だったなと思いました。また、私たちが見てないところを見ているなと感じた部分もありました。感じることも違うように思えました。楽しかったです。

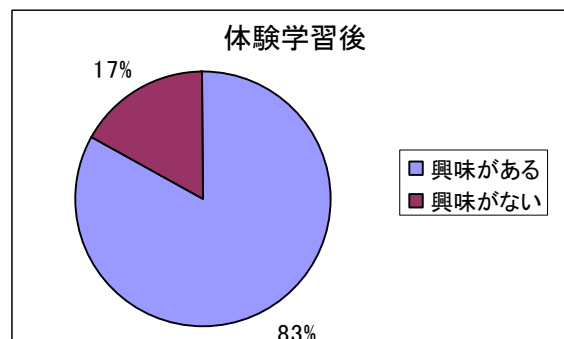
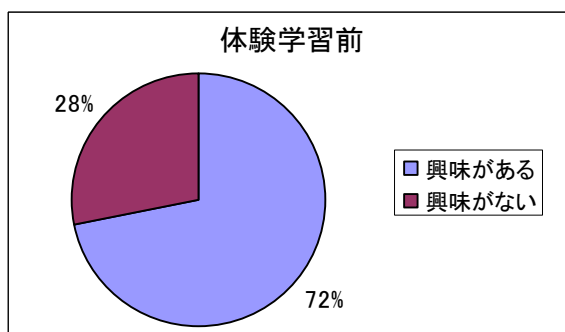
- ・想像していたよりずっと大変だったな。だけど、思っていたよりもずっとずっと楽しかったとも思った。泣いている子どもには困ったし、まだ話せない子どもの気持ちを理解してあげることも難しかった。それだって、実際に本当に理解してあげられたかだって分からない。でも、一緒に遊んでいる中で笑顔を見せてくれたときは、感動と少しホッとした気がしました。まだ、できないことがたくさんある子供たちだけど、私と何も変わらないなって思いました。笑うし、怒るし、泣くし、お気に入りだってある。小さな人間なんだってしみじみ思いました。



〔生徒の様子と考察〕

家庭総合の中の保育領域ということもあって、保育に関することを深く勉強してから保育実習に行ったのではない。「小さな子どもたちに接する機会が少ないから、保育分野に興味を持てない」という意見が多くあったので、今回の保育所実習を行ったのだが、学年全員を参加させることには不安や心配がたくさんあった。保育士や幼稚園教諭になりたいと思っている生徒なら多少の心構えがあるが、ほとんどの生徒が目指す進路とは関係のない実習である。受け入れていただいた保育所でも、クラス全員の受け入れは今まででなかったようで最初は戸惑っていた。

今回の保育所実習の目的を「子どもと触れ合う」ことに重点を置き、これからの授業に対する取り組みに生かして欲しいと思い実施した。最初は「子どもと接することが怖い」と感じていた生徒が、保育所実習に行って「子どもはかわいい」という感想を書いていた。最初は「保育所実習に行きたくない」と思っていた生徒が、保育所実習に行って「とても楽しかった」という感想を書いていた。



アンケート結果からは、2回の体験学習を通して保育に興味を持っている生徒が多くなったのが分かる。保育所実習後は更に興味が高まっていた。

保育に関することをしっかり勉強して実習に行くことも大切だが、興味を持たせるために行う実習も意味のあることだと思った。また、保育所の先生が「生徒たちは元気があっていいわね」「生き生きしている生徒が多い」という感想をおっしゃっていた。確かに、授業中ではあまり見ることはできない優しい表情の生徒たちを見ることができた。物静かな生徒が子どもたちと走り回り、子どもが好きではないと言っていた生徒にずっと手をつないでいた子どももいた。普段の学校生活と違う生徒の表情が見えたことは、実習に行く前の私の心配と不安を取り除く以上に得たものが大きかった。

エ 事例4 「インタビューしてみよう」～子どもが生まれるということ～

「親」である人にインタビューをしてくる課題である。

〔生徒たちの感想〕

- ・私たち3人を命がけで産んでくれて本当にありがとう。昔から料理が凝っていたんだなと思いました。お母さんの娘で本当に嬉しいです。2人の姉と兄がいて幸せです。
- ・「子育てはその時、一瞬一瞬が大変で大切なんだな。楽しいことや幸せだけじゃなくて、辛いこともたくさんあるんだな」と思いました。そして、私の親ともっと話がしたいなと思いました。恩返しが早くできたらなと強く思いました。

＜インタビューの項目＞

- ・妊娠を知ったときに感じたこと（喜び・希望・不安など）
- ・胎動を感じたときの思い出
- ・出産日はどんな日だったか（時刻・場所・出産の経過など）
- ・子育ての思い出
- ・子どもを持ったことで自分自身に変化があったか
- ・その他

〔生徒の様子と考察〕

いろいろな家庭環境で育ってきた生徒が多いので、「自分の親」に限定しないでインタビューをすることにしたが、多くの生徒は自分の親それも母親にインタビューしていた。中には、母親が自らプリントに記入してくれたものもあった。男子生徒が母親にインタビューするのが照れくさいからなのか母親が子どもへのメッセージとして残したかったのかは、分からない。高校3年生という思春期のまっただ中、親に反発している生徒もいる。普段は親との会話がほとんどない生徒が「会話のきっかけになった」と言っていたのが印象的である。プリントに記入して提出したため直接親には届いてないかもしれないが、親への感謝の気持ちはどの生徒にも感じ取れた。そのような点では、とても意味のある課題だったと思う。

オ 事例5 レポート作成

4つの題の中から一つ選んで400字以上のレポートを作成する。

〔レポート抜粋〕

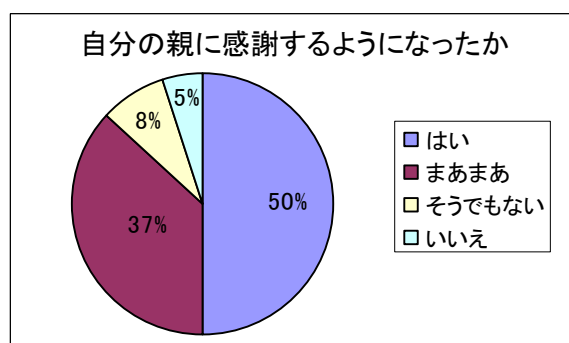
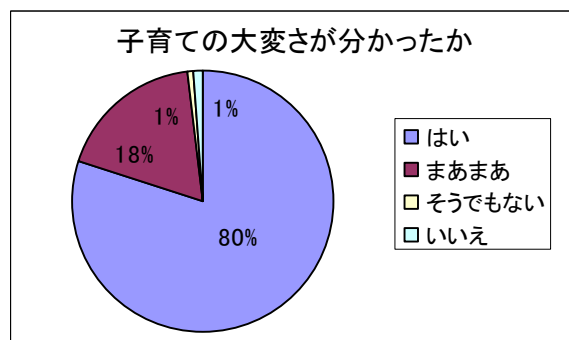
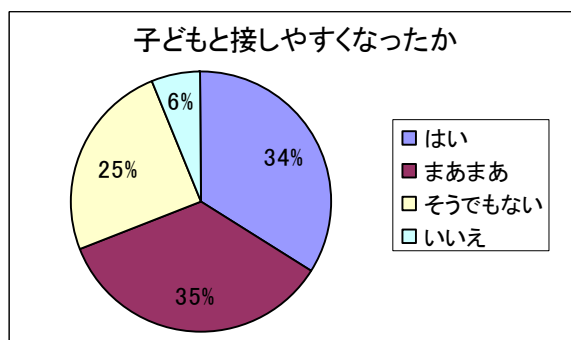
- ・子育ては、やっぱり女性のほうが大変だと思う。その中で男がいったい何ができるかを考えて、見つけて、少しでも楽にしてあげることが男にできるせめてものことだと思う。
- ・自分も子どものころ両親が共働きで、「寂しい、どこにも行かないで」と思っていたけど、私たちのためにお母さんも苦労していたんだなと思うようになった。でも、周りの人たちに

支えられて両親も私たちもここまでこれたんだと思うと、これから支えていく立場になりたいなと思った。将来子どもを産んでも、一人で抱え込むのではなくて周りの人にも協力してもらって子育てできたらいいなと思った。

- ・私は子どもが苦手で、親戚の子どもと遊んであげなかったことがある。この勉強をしてとても後悔した。将来のためにも子どもたちと仲良くしていこうと思った。

(5) 学習後の意識調査と考察

ア 事後アンケートと考察



以前より子どもに接しやすくなったと答えている生徒が70%いた。生徒のコメントにもあったが、子どもと触れ合う機会を通して子どもに対する不安が少し取り除かれたようである。中には「やっぱり子どもは苦手だと思った」という生徒もいたが、苦手ながらどのように接したらよいかを考えるいい機会になったのではないかなと思う。

子育ての大変さは、ほとんどの生徒が分かったと答えている。子どもはかわいいけれど、かわいいだけでは育てられないことも伝えることができた。その中で今まで育ててくれた親に感謝し、これから恩返しをしたいと思っている生徒が多くいたことは嬉しいことである。

イ 今後の課題

妊婦疑似体験は、他校のものを借りることにより効果的に実施することができた。前年度は本校にあるものだけで実施したが、多くの生徒が体験したほうがより効果的であると実感した。

また、手作りで簡易的なものを利用することでも体験者を増やすことができるだろう。

ゲストティーチャーは、知り合いに乳幼児を持つ方がいたので相談したところ、快く引き受けてくれた。今回はこのようにお願いすることができたが、今後も続けていくためには、地域の関係機関と連携し、協力していただける方を探す必要があると思う。また、ゲストティーチャーの方から「自分の育児を振り返るいい機会になった」という感想をいただくことができたので、そのような面からも今後も続けていきたい。

保育所実習は2学期の後半に行ったが、この時期は保育所では他の実習も受け入れており、日程を調整するのが大変だった。また、風邪が流行し始める頃なので体調管理にも気を使った。クラス全体の引率、体調の悪い生徒や遅刻して登校した生徒の学校での対応など一人では全て出来ないこともあり、先生方の協力が必要であると感じた。また、保育所だけでなく小学校との連携を図ることも今後検討していきたい。

インタビューしてみよう・新聞記事の利用・視聴覚教材の利用の学習は、事前アンケートでは苦手としている個人レポートにした。以前より前向きに取り組んでおり、体験学習を通して現状を理解し、自分の考えをまとめやすくなったのではないかと感じた。今後はグループ討議を含めた学習活動にも展開していきたい。

4 おわりに

本校では「保育」領域を家庭総合の学習の最後に行っている。2・3年での履修なので高校生活としても最後の時期に行う。それまでの学習を通して自立して生活する上での基礎的技術を学び、現在の社会情勢等を知り、卒業後の進路を考えると自分に改めて向き合った生徒たちなので、自分自身を振り返り将来を考えることができるようになったのかもしれない。「親」について考える際、感情的になって冷静に考えることのできない時期もあるが、3年生のこの時期は多くの生徒が客観的にとらえることができるようになっていた。いろいろな家庭環境で育ってきた生徒がいるので、今までの自分を振り返りたくないという生徒もいる。しかし、冷静に振り返ることでこれからの生き方により影響を与えるのではないと思う。心も体も成長したこの時期に「保育」領域を学習するのは意味のあることではないかと感じた。

また、男女協同参画社会の考えが浸透している今、男子高校生が「保育」に関することを女性任せにしようとしている割合の多さに驚いた。しかし、体験学習を通して子育ての大変さを知り、子育てにおける男性の必要性を感じてくれたことはよかったと思う。

今回このような機会をいただき、生徒以上に私自身が、今までの自分を振り返ることになった。また、この先の自分について考えるいい機会になった。

最後になりますが、協力をしてくださった職場・指導助言・教科研究の先生方に感謝と御礼を申し上げます。

参考文献 ビデオ「育ち 育てる 子育ての時間」キューピー株式会社